

今本当に必要なのは、暮らしを守り、平和で民主主義的な日本をめざす、確かな野党！
確かな野党、日本共産党は国会でも地域でもがんばっています！

ご近所のみなさん。 日本共産党です。しばらくの間、わたしたちの暮らしを守り、日本の、平和で民主主義的な発展を願う立場から、お話をさせていただきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

みなさん。「にせものメール」問題で、国会と国民の信頼を失った民主党は、執行部の総退陣を余儀なくされ、小沢一郎氏が新しい代表に選出されました。

小沢一郎氏といえば、もともと自民党中枢にいた方です。十三年前にあらわした『日本改造計画』という本の中で、規制緩和推進、自衛隊の海外派兵容認、消費税増税の立場を明らかにしていました。小選挙区制を推進して「二大政党制」をつくるとか、政党助成金に、税金を一千億円もあててよいなどと言っていた方です。自民党から飛び出して、自民党政治を外から支えるような立場だったと言っても、よいのではないのでしょうか。実際、今日の民主党をみてみると、規制緩和推進のいわゆる「構造改革」や、消費税増税、日本を海外で競争をする国につくりかえる憲法改定と、そのための国民投票法案の推進など、国の基本問題で自民党と同じ立場です。これでは、野党とは言えないのではないのでしょうか。

みなさん。今ほど、自民党政治との対立軸の明確な、野党が求められているときはありません。

自民・公明の小泉内閣が進めてきた「構造改革」によって、貧富の差が広がり、日本は、深刻な格差社会になってしまいました。

労働の分野の「規制緩和」は、パートやアルバイト、「派遣」や「契約」、「請け負い」など、非正規社員をどんどん増やして、働く人たちの所得を減らしてきました。保険にも、年金にも入れてもらえないで、不安な日々をすごしている若者がたくさんいます。こんな日本でよいのでしょうか。

「構造改革」の名で、社会保障の改悪も進み、今、国会では医療改悪が大問題になっています。高齢者の窓口の負担が二割とか三割に増やされるばかりか、病気になっても保険のきかない分野を広げようという「大改悪」です。各地の医師会や開業医も、これでは、「皆保険（かいほけん）制度」のおおもとがこわされる、重症にならないと医者に行かない人が増えて、結局医療費がふくらんでしまうと、反対の声をあげています。医療改悪をやめさせるために、世論と運動を広げようではありませんか。

みなさん。こうして、所得を減らし、社会保障を削りに削る、自民・公明の小泉内閣は、その上、増税の追い打ちをかけてきます。この一月から、定率減税が半分に減らされるなど、サラリーマンの所得税増税が行われています。所得税のいっそうの増税に加えて、谷垣財務大臣を先頭に、消費税増税の声が強まっているのは重大です。

財界・大企業の、賃金抑制と、保険料や税の負担を減らしたいという要求にばかり、こたえる政治でよいのでしょうか。今、日本の大企業は、史上空前の利益をあげています。大企業に、雇用や社会保障、税制の上で、もっと社会的存在にふさわしい、責任を果たさせる改革が、必要ではないのでしょうか。

各地で問題になっている「基地強化」や、憲法九条改悪の動きのおおもとにある、アメリカいなり政治も、切り替える必要があるのではないのでしょうか。

みなさん。

自民党政治との対立軸をもつ、確かな野党、日本共産党が、国会でも地域でも、頑張っています。「しんぶん赤旗」を、是非、ご購読ください。

ご静聴・ご協力ありがとうございました。